

# かがやき新聞 ～霜月～

10月30日(日), 黒田地区の「おーらい黒田屋」さん前の広場で開催された、「第22回 黒田ふれあいまつり」にスタッフとして参加しました。



昨日の荒天が嘘のよう、当日は爽やかな秋晴れでした

黒田ふれあいまつりは私たちがかがやき隊が京北地域に赴任後、初めて企画段階から参画したイベントとなります。秋の黒田に賑わいを、と始まったふれあいまつりも今年で22回目を迎えました。イベント内容は以下の通りです。

- ①黒田の採れたて野菜を販売する「新鮮やさい市」
- ②ジビエ料理も振舞われる、料理販売ブース
- ③不用品バザー・射的コーナー
- ④イベントステージ
- ⑤抽選コーナー
- ⑥黒田千年の森（森と人の営み展）

## ①新鮮やさい市について

今年は天候不順で昨年の半分くらいしか用意できなかったと黒田の皆様が残念がっておられました。たくさんのお客様が思い思いに新鮮な野菜を買い求めておられました。この時、巷の葉物野菜は驚きの価格でしたが…とにかく安い！もちろん食べても美味しい！特に印象的だったのは「まいたけ」でしょうか。もうスーパーで売られているまいたけは食べられません。



## ②ジビエ料理について

鹿と猪を用いたジビエ料理。獣特有の臭みは全くなく、美味しい。左から猪汁、新メニューの「鹿のワイン煮」、猪焼肉。特に鹿のワイン煮は女性に大人気でした！

## ④ステージについて

私はイベントステージで少しお手伝いをさせて頂きました。会議中「イベントステージの内容がマンネリ化しているの、何かいいアイデアはないかなあ」という問いかけがありました。私の友人関係に京都沖縄県人会の会員様がおられますので、演者さんの派遣ができないかと相談したところ快諾をいただき、山国地区在住の唄三線奏者「にい じゅん」様のご出演が叶いました。また、京都沖縄県人会の皆様が曲に合わせて踊る「カチャーシー」を披露。地元の方も輪に入って下さり、かなり盛り上がりました！



## ⑥黒田千年の森について

黒田地区はかつて都(平安京)の造営のための木材供給地であったため、林業が盛んでした。今年度は『森の京都博』にちなみ、森と人の営みをテーマに展示を行いました。

木の匂いを嗅いで品種を当てるコーナーや、森の写真、自動車での運搬が発達する前の木の運搬手段であった『きんま曳き』の実演など、多くの方々が足を止めて見入っておられました。

## \*今年のふれあいまつり\*

軽く汗ばむほどの晴天に恵まれたこともあり、例年よりも人出が多く、長時間滞在のお客様が多かったのが目立ったとのことでした。料理類も全て売り切ったそうです。私たちが驚いたのは実は祭りのあと。特に指示があるわけでもないのにサッサと撤収してしまう手際の良さにただただビックリしておりました。次回のふれあいまつりは今回よりも更に楽しんでいただけるものになりたいと思いました。



黒田ふれあいまつり

フォトギャラリー



かがやき新聞 霜月

発行人：京都市北部山間かがやき隊 三谷 博文

お問い合わせ先：右京区役所 京北出張所

電話：075-852-1811

メールアドレス：miqdc130@city.kyoto.lg.jp